



気象庁に地球環境・海洋部が発足しました*

気象庁地球環境・海洋部**

人間活動の活発化に伴って、地球温暖化やオゾン層破壊などの地球環境問題の解決が世界的な課題となっている。また、これらの地球環境の変化が世界の気候に及ぼす影響により、異常気象が頻発するなど、これまでに経験したことのない現象が引き起こされるのではないかと懸念が高まっている。

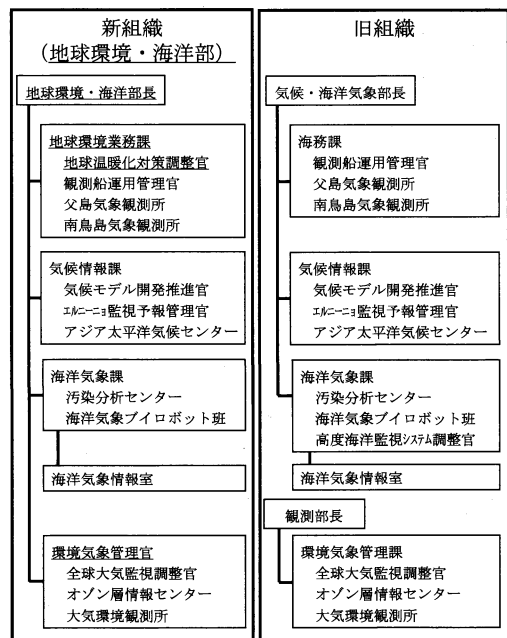
こうした中、本年2月には京都議定書も発効し、温室効果ガスの削減に向けて国・自治体の対策も本格化しており、国内の各地域における温暖化に伴う変化等をきめこまかく、わかりやすい総合的情報として提供することが求められている。

これらの要請に的確に対応し、私たちの社会を安全で安心なものとするために気象庁は、今まで観測部と気候・海洋気象部に分散していた地球環境に関する観測・解析・予測及び情報提供を、基本的に一元的に行うために地球環境・海洋部 (Global Environment and Marine Department) を平成17年7月1日に発足した(第1図)。

地球温暖化等の予測精度を向上し、自治体等の各種対策に利用される、きめこまかな情報を提供するためには、大気・海洋全体の循環(変動)と温室効果ガス、エアロゾル等の物質循環を総合的に地球システム(第2図)として捉え、その状態を総合的かつ長期的に監視することにより地球環境の状況を的確に把握し、その変化を予測することが不可欠である。

このため、観測の分野では、国際的には「全地球観

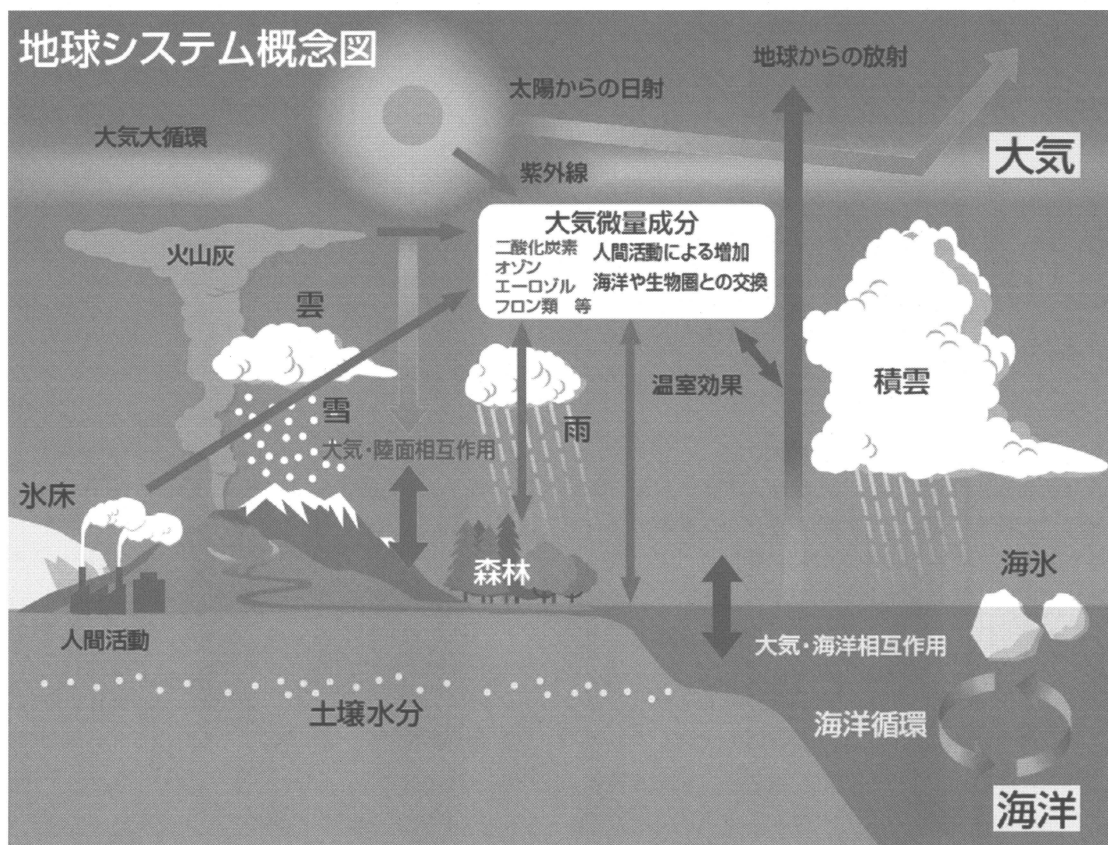
測システム(GEOSS: Global Earth Observation System of Systems) 10年実施計画」(平成17年2月の地球環境サミットで策定)により、「持続可能な開発」のために全世界的な地球観測を行うためのシステム構築にむけた対応が進められており、国内では総合科学技術会議が「地球観測の推進戦略」を平成16年12月に策定した。この戦略において、「地球温暖化に係わる現象解明・影響予測・制御適応」分野など5分野が今後10年程度を見通して重点化すべき課題として挙げられ、関係省庁・機関が緊密に連携・協調しながら推進していくこととなっている。



第1図 地球環境・海洋部の組織図。

* JMA Reformed the Organization to Build "Global Environment and Marine Department".

** Global Environment and Marine Department of Japan Meteorological Agency.



第2図 地球システムの概念図。地球システムとは、大気と海洋・陸面・雪氷といった、気候を形成する地球の物理的構成要素及びそれらの相互作用に加えて、二酸化炭素やオゾンなど気候に影響を及ぼす微量気体と、それらの分布と変動に関わる生態系や化学反応物質、さらに人間活動まで含めて、地球の環境とその変化を決定する諸過程を1つのシステムとしてとらえた概念である。

気象庁地球環境・海洋部は、こうした国内外機関との連携対応を推進するとともに、技術開発の推進、観測・監視・予測体制の強化を進め、地球規模の変動を

総合的に捉え、よりきめ細かく、よりわかりやすい精度の高い情報を的確に提供していくことを目指している。

編集委員会だより

ひまわり6号の運用開始に伴うカラム名の変更について

2005年6月28日正午から運輸多目的衛星「ひまわり6号」の正式運用が始まったのに伴い、2004年3月から続けてきた「今月の衛星画像」欄のカラム名を「今月のひまわり画像」に変更することにいたしました。

本号に掲載される2005年7月の画像から、「ひまわり6号」の観測となります。

「天気」編集委員会